

御朱印と書

納経帳は、四国遍路をする人には欠かせないアイテムです。本堂・大師堂での参拝後、各寺院の寺務所で授与されます。300 円を払うと、寺院の職員が 1 ページに 3 つの御朱印を押し、その上に書を書きます（寺院によって順番は異なる）。御朱印は右から左に、寺院の番号、御本尊の名前（梵字またはサンスクリット語）、寺院の名前を表します。書は、右から左へ、「奉納」の文字、御本尊の名前、寺院の名前を表しています。なお、御朱印と書がいただけるのは、寺院の開門時間（午前 7 時から午後 5 時まで）に限りますので、ご注意ください。

納経帳の書と御朱印は、その所有者が寺院で納経したことを証明するためのものであり、これにより、巡礼者を見守る神々とのつながりを確立します。この証明は、白衣（200 円）や納経軸（500 円）でも受け取ることができます。1 人の巡礼者が差し出し、御朱印と書をいただくことができるのは、それぞれの種類のを 3 つまでです。この上着は、巡礼者が着用する通常の白衣ではなく、この目的のためだけに使用されるものです。これは、納経帳や納経軸と同じように、いくつかの大きな寺院で購入することができます。経験豊富な巡礼者がよくするように、納経帳は再利用することができますし、納経軸は記念品になりますが、この上着はより深い宗教的な意味を持っています。巡礼者の中には、死後に棺の中で着るために準備する人もいますが、これは、死後の世界の神々への献身と敬虔な生活を証明するために使うことができると信じられています。